

平成 30 年度 観光入込み数 増減要因

1 平成 30 年度の観光入込み数について

平成 30 年度の観光入込み数は 1,505,404 人で、230,166 人の減（前年比 86.7%）となった。

【内訳】〔宿泊者数〕	84,366 人	5,107 人の減	（前年比 94.3%）
〔日帰り客数〕	1,421,038 人	225,059 人の減	（前年比 86.3%）

2 増減要因の総括について

（一財）アイヌ民族博物館が平成 30 年 3 月末に閉館したことにより、前年度の来館者数 192,840 人の観光入込み数が平成 29 年度の集計数から純減することとなった。これに関連し周辺の飲食・みやげ目的の来客数が減少したものと考えられる。

また、胆振東部地震の影響により宿泊客数も減少しているが、虎杖浜温泉地区での日帰り入浴客数は 1 割程増加（+15,058 人）しており、温泉施設営業再開の好影響が続き、域内での相乗効果が生まれているものと考えられる。

3 地区別の主な増減要因

虎杖浜温泉地区（竹浦・虎杖浜地区）

虎杖浜温泉地区の全体の観光入込み数は 906,524 人で、3,809 人の増（前年比 100.4%）となった。

【虎杖浜温泉地区の増加要因】

「自然景観」 102,500 人 9,343 人の増（前年比 110.0%）

■ 前年度の 14%増加に続き、今年度も 10%の増加となった。

「日帰り（ホテル・旅館）」 167,399 人 15,058 人の増（前年比 109.9%）

■ 温泉施設営業再開の好影響で相乗効果が生まれていると考えられ、日帰り温泉施設の利用が増加している。

【虎杖浜温泉地区の減少要因】

「スポーツ・レクリエーション」 49,108 人 9,186 人の減（前年比 84.2%）

■ パークゴルフ場の利用者が減少したため。

「宿泊客（ホテル・旅館）」 77,687 人 5,510 人の減（前年比 93.4%）

■ 胆振東部地震の影響もあり、宿泊客数が減少したため。

「飲食店・みやげ」 497,530 人 6,289 人の減（前年比 98.8%）

■ 減少してはいるが、総数から考慮すると横ばいでの推移といえる。

白老地区（社台～北吉原地区）

白老地区の全体の観光入込み数は 598,880 人で、233,975 人の減（前年比 71.9%）となった。

【白老地区の増加要因】

「日帰り（ホテル・旅館）」 1,061 人 908 人の増（前年比 693.5%）

- 工事関係者などの利用により増加しているものと考えられる。

「自然景観」 14,142 人 2,258 人の増（前年比 119.0%）

- 上期にインクラの滝訪問者が増加、下期には萩の里自然公園の利用者が増加したため。

「宿泊客（ホテル・旅館）」 6,679 人 403 人の増（前年比 106.4%）

- 工事関係者などの利用が引き続き堅調に推移しているものと考えられる。

【白老地区の減少要因】

「文化・歴史」 5,399 人 192,422 人の減（前年比 2.7%）

- 陣屋資料館の訪問者は 8.4%伸びているが、アイヌ民族博物館閉館の影響により大幅に減少した。

「体験・ツーリズム」 2,329 人 9,444 人の減（前年比 19.8%）

- 通年で体験施設の教育旅行の受入れが減少となっており大幅な減少となった。

「飲食店・みやげ」 391,783 人 25,596 人の減（前年比 93.9%）

- アイヌ民族博物館閉館の影響もあり、周遊客の減少が考えられる。

4 アイヌ民族博物館について

平成 30 年 3 月末にて閉館したことから、前年度の来館者数 192,840 人が今年度の集計数から減少することとなった。

5 訪日外国人観光客の増減要因

「宿泊客数」 11,815 人 684 人の増（前年比 106.1%）

前年度の伸び率（198.4%）からは鈍化しているものの、胆振東部地震の影響を大きく受けることなく推移しているものと考えられる。

◎主な国籍 中国 2,430 人、韓国 1,475 人、香港 467 人、台湾 165 人

6 過去 5 年間の入込客数の推移

平成 26 年度	1,792,032 人	(57,850 人	前年比	103.3%)
平成 27 年度	1,814,511 人	(22,479 人	"	101.3%)
平成 28 年度	1,766,682 人	(47,829 人	"	97.4%)
平成 29 年度	1,735,570 人	(▲	31,112 人	"	98.2%)
平成 30 年度	1,505,404 人	(▲	230,166 人	"	86.7%)